

# ☆☆東京民医連☆☆ 薬害根絶の会 news

2012年6月28日発行 No.33

## 薬害イレッサ大阪高裁判決 逆転敗訴 国、企業の責任を否定する不当な判決！

非常に厳しい判決です。「イレッサによる間質性肺炎の発症頻度は他抗癌剤に比べ非常に高く、致死性であり…」と述べながら「4番目に記載していても、本件患者の担当医が予後良好、致死的でないと理解するとは考えがたい。」と指示・警告上の欠陥は無いとしました。

イレッサの危険性を読み誤った現場の医療者が、発売2ヶ月で160名もの間質性肺炎による死亡者をだしてしまったのでしょうか。

一審判決の「一人二人の医師が読み誤ったのならともかく多くの医師が読み誤ったと…略…情報提供の方法が不十分であったと見るべき」が否定され、「第1版の添付文書に過失無」が裁判上「正義」とされて本当に良いのでしょうか？薬の世界がどうあるべきか考えないといけません。

### 第3回 薬害を学ぶ連続講座 ～薬害イレッサのお話～

5月9日『薬害被害者・原告と弁護団からお話を聞く会』第3回『薬害イレッサ』が、城北法律事務所で開催されました。

会場は40名を超える参加者でいっぱい。初めに15分のビデオを観た後、原告近澤さん、阿部哲二弁護士の話をお聞きしました。



★毎年8月24日には薬害根絶デーが取り組まれます。ことしも薬害根絶デーのチラシとストーリーブックで、ひとりでも多くの方に薬害を知ってもらいたいですねえ・・・ここでちょっと?? “薬害根絶デー” ってなに? 8月24日はなんで “薬害根絶デー” なの? ★その疑問を解決すべく、きっかけとなった薬害『薬害エイズ事件』について2回にわたって取り上げたいと思います。

- \*薬害エイズ事件とは、血友病患者が止血治療に使う血液凝固因子製剤にエイズウイルス（HIV）が混入し、使用した血友病患者の4割、約2千人がHIVに感染させられた事件です。
- \*1982年米国ではCDCの血友病患者3名のHIV感染報告を機に、感染源の非加熱血液凝固因子の使用禁止、安全な加熱製剤の迅速承認の措置が取られました。日本でも血友病患者会が安全な血液製剤供給の要望を出し、厚生省エイズ研究班が立ちあげられましたが、米国とは対極で何の安全措置も講じられず、危険な製剤というがまだよくわかっていない、過剰反応させられてはいけないう…という高名な医師の主張に反論する者はいませんでした。



- \*1985年米国に2年遅れて（ミドリ十字の製剤待ち）加熱製剤が一括承認されましたが、その間日本では、海外で使用禁止となった危険な非加熱製剤が、在庫処分の如く販売され続けました。しかも、加熱製剤承認後2年経った1987年まで回収されることもなく血友病患者に使用し続けたのです。
- \*1989年HIV被害者は、非加熱製剤の危険性を知りながらこれを承認、販売した厚生省と製薬企業を被告とする損害賠償訴訟を起こしました。裁判の過程で危険性の認識を示す資料が紛失してわからない…などと言っていたことが実は隠していたことや、製薬企業-大学-厚生省の天下りの構図が明らかになり、国民的な批判を被告側は受けていきました。
- \*1996年被告が責任を全面的に認め和解が成立しました。原告の勝訴です。
- \*まさに国中を巻き込んだ裁判で、そこには長く深い過程があります。次回はその過程の中でいろんなことを体感したある薬剤師との談話を紹介します。



イラスト提供「webサイト赤ずきんちゃんの敵・歩・道」